

劇団態変の身体表現について 金満里さんの話を聞きDVDを観る会

皆さんは劇団態変という劇団を知っていますか？
障害者が自ら企画・演出・出演する、極めて珍しい
劇団です。しかも、車椅子や補装具などは一切使わ
ず生身の体にレオタード姿で舞台を這ったり、転が
ったりと、まるで、社会に対し障害者のあるがまま
を突きつけるかのような舞台構成。観る者の潜在的
意識を問うようなテーマに心が揺さぶられます。

限りなくアート性にこだわり障害者問題を越え、
ぶっ飛んだテーマに何故チャレンジし続けるのか、
その真意を実際に劇団態変を起ち上げ、牽引し続
ける金満里氏を招いて、劇団の歴史や想いを伺う機
会を設けました。

劇団態変は来年2016年3月に東京公演を行います。



2016 劇団態変・東京プロジェクトより
[http://taihen.o.oo7.jp/2016tokyo/
2016tokyo.html](http://taihen.o.oo7.jp/2016tokyo/2016tokyo.html)



日時: 2015年10月18日(日) 13:30~
場所: 玄米定食屋らくだ 楽多ビル2階
世田谷区南烏山6-8-7

電話: 03-5313-8151
参加費: 無料!



玄米定食屋らくだQR

玄米定食屋らくだのURL <http://rakuda.tiyogami.com/>

車いす用トイレとエレベーターのあるバリアフリービルです。
ベビーカーもご利用いただけます。
また、トイレの洗浄水は雨水を使用しています。



劇団態変を知ってる人は再確認のために、
また、知らない人は、是非この機会にこんな
表現の仕方があるんだと知って欲しいと思い
ます。また私たちは東京公演に向けて多くの
ボランティア（メイク下塗り程度でも可）や
着替えなどを手伝っていただける方々を求め
ています。我こそはと思う方は是非お声がけ
ください。

劇団態変東京応援団

連絡先: nagai@aotori.org

裏面に劇団態変の主宰金満里さんからのメッセ
ージがありますのでお読みください。

金満里さんからのメッセージ

奪われた地平に転がす身体があっという

劇団態変を身障者だけの舞台身体表現として立ち上げ32年になる。

私自身が重度の小児麻痺身体障害者なのだが、そういう私が態変を立ち上げた動機には、はっきりと、「これまで全世界がスタンダードにしている身体観＝健常者の身体」とは全く違う身体の価値に気付いたからだ。

これまで身障の体は、障害が重度であればあるほど、「醜い」や、「社会的口ス」として見なされ、世の中に存在しないかのようにその障害の部分を消されてきたと思う。

だがその価値観に縛られず、身障の体を見なおしてみると、これほど一つずつ固有な存在としてあって、躍動感に満ち生き生きと突出している体の持ち主はいない。

これは大きな発見だった。

我々身障者の日常は実は、不自由でもなんでもなく、個別な生活スタイルで生活している。それが一般社会の画一化に合わせさせられ、身障者のダイナミックな動作でそのまま動くことがやりづらくなっている。そのことの方が不自由なんだ。

街に出るときは、車イスや補装具・杖であったり介護者も付いていたりで、身障者の体は常に、社会適応のためにガードされ、生みな姿で闊歩できない。そのことが不自由なんだ。

だから、私は自己の体を「身体」と規定し、舞台という荒野を求め身体表現することを考えついた。そして、かけがえの無い自由を手に入れた。

それは、「かけがえの無い身体への新たな価値の発見」であり、一般とされている健常の身体への価値へも大きな転換をせねばならないこと、の提示としてもある。

それほど、みんなの身体は新たな価値を必要とし、もっと別次元の価値へと進み出るための地平に行きたい、と、切実に思っているのだ。



「試験費」2015年3月 ©ウイングフィールド

写真/中山和弘

舞台上の金さん

態変の芸術活動は、これまで多くの国から招聘を受け海外公演も行なって高く評価されてきた。しかし近年の福祉行政の変更で、活動を支える基盤がなくなり、活動の継続に問題を抱えながら、本拠地大阪では公演を精力的に行なっている。

今回12年ぶりに東京公演をやる理由は、この態変の身体表現芸術ムーブメントを、今の東京でこそ巻き起こしたい。

我々の古くて新しい身体への可能性を、実現したい。ということにある。それは、我々にとっても新たな飛翔のためでもある。

劇団態変主宰・芸術監督 金満里



「自由からの逃走」2010年10月 ©大阪城公園太陽の広場特設NGR音楽テント 写真/福永幸治 (Studio Epoque)

躍動する舞台！観る者を圧倒させる！これが態変だ！